

思っていませんでした。しかし、幼児教育・保育の無償化による変化は、既に各地から聞こえ始めており、国公幼にとって大きな影響が出てくるであろうと懸念していました。そのような状況だからこそ、日本の幼児教育のために、「質の高い幼児教育を追求する」ことが、私たち国公幼が果たすべき使命であると考え、その後の常任理事会などに提案し、承認され、年間テーマとして確定したのです。

私が入国公幼の代表として委員を務めてきた文部科学省の「幼児教育の実践の質向上に関する検討会」や内閣府の「子ども・子育て会議」でも、待機児童解消のための保育の受け皿という量の問題を越えて、幼児教育の質の議論がさされてきました。それに対する予算措置についても見通しが付き始めた矢先、新型コロナウイルス感染症の蔓延・臨時休業などへの対応という未知の課題に向き合う日々となりました。

しかし、そのような状況だからこそ、私たち国公幼は、使命感をもって質の高い幼児教育の実現のために取り組んできました。

文部科学省のホームページに、  
**「国公幼遊びの紹介」**  
 で検索



提言

# 質の高い幼児教育を 若い力と共に



東京都 港区立青南幼稚園

園長 新山 裕之

質の高い幼児教育のために  
 国公幼が果たすべき使命

本誌『幼児教育じほう』は、全国国公立幼稚園・こども園長会（以下、国公幼）の機関誌です。企画や編集は、時報部員である園長たちが、自園の園務と並行して行っています。毎月の編集会議の他に、「夏の陣」と呼ばれる丸二日にわたる企画会議を行い、次年度のテーマなどについて熱い議論を積み重ねるのです。本年度の企画を協議した夏の陣には、当時の会長として、私も参加しました。

その時点では、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、世界がこのような状況になるとは誰も

でき、多くの方々に見ていただく機会が増えました。

十数年にわたって続いている子育ての支援に関わる調査研究報告書やそれらを基に作成した親子の関わりを促す教材やリーフレットが、この機会に改めて多くの園で活用されたことは大きな喜びでした。また、国公幼の事業の先見性、研究の質の高さや組織力の強さを再確認することもできました。

### 国公幼の底力を示した 取組事例集

それと並行して、文部科学省に協力する形で「自宅で過ごす親子を支援する取り組みの提供」について、国公幼事務局から各地の園

を高める研修がこれまで以上に重要となります。園長には若い保育者の指導力や意欲を高め、共に園づくりをしていくための経営力を磨く研修も必要です。

しかし、感染症拡大の影響で様々な研修会が中止になってしまいました。そのような中、国公幼では、各ブロックや都道府県単位の研修も含め、遠隔地にいる講師と各園をオンラインでつなぐ新しい形の研修を試みることも数多く見られ始めています。

昨年の東海北陸ブロック研修会は、福井県の園長会の先生方のご尽力により、



長会を通じて全国の仲間呼び掛けました。文部科学省に寄せられた取組事例のうち、八割近くが国公幼の園からだったと聞き、皆さんのご協力に深く感謝すると同時に、誇りに思いました。

前述の「子供の学びの応援サイト」には、「新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集 令和二年五月十三日時点」と、「幼稚園等再開後の取組事例集 令和二年九月七時点」の二つが紹介されています。

そこに紹介された取組事例を見ても、国公幼の実践の質の高さを知ることができます。各地域の幼児教育の質のセーフティネットとして、国公幼がなくてはならな

DVDを配布する形で全国の五千五百人もの先生方が学びを共有し、大きな実績を残すことができました。深く敬意を表します。

直接顔を合わせる研修会は必要ですが、動画配信やオンライン研修は、時間や予算の節約にもなり、大勢が参加できるメリットもあり、様々な工夫をして、学びを止めないことが重要です。

### 全国大会の誌上開催や ホームページへの掲載

昨年六月に開催予定だった総会・研究大会 埼玉大会は中止となりましたが、大会冊子を全国の全ての会員に配布することができました。八月に予定していた研究

い存在であることを社会や行政の方々に、改めてご理解いただきたいと切に願います。

### 学び続ける努力と工夫

「学び続ける者だけが、子どもたちの前に立つことができる」

これは、私が保育の道を目指していた大学生の頃、恩師からもらった大切な言葉であり、今でも折りに触れて話している言葉です。子どもたちと関わる我々の仕事は、リモートというわけにはいきません。子どもの表情やつぶやきから心の内を読み取ることは、マスク越しとなった今、難しさを増しています。だからこそ、指導力

協議会 和歌山大会の資料は、国公幼のホームページに全て掲載することができました。ぜひご活用いただきたいと思えます。

これらは、国公幼の仲間の幼児教育に対する熱い思いと強い団結力によって成し遂げられたものだと、深く感謝しています。常に前向きに取り組む大人の背中を、子どもたちにも見せることができたのではないのでしょうか。

また、国公幼のホームページは、事務局や広報部の努力により、この一年で飛躍的に改善されました。十二月号の「国公幼だより」でも紹介しています。充実させたりリンク集の中でも、特に文部科学省は、幼児教育の関連ページに簡単にア

クセスできるようになっています。積極的に活用するとともに、PRしていただければと思います。

### 幼児教育の質を支える 人材を輩出する国公幼

先日、東京都の新規採用幼稚園教諭研修の講師として講話をする機会がありました。感染予防のため動画配信となりましたが、その研修会全体や当日の収録を支えてくれたのは、国公幼出身の指導主事や教育研究生、若手のアドバイザーである研修・研究支援専門員の先生方でした。

幼児教育の質の向上を実現するために、教育委員会による支援や指導は欠かせません。しかし、こ

ども園となる施設が増える中、所管部署が教育委員会なのか首長部局や保育課なのかによって、特に研修や小学校との接続に関する情報共有などに差が出てきているのではないかと心配しています。

各地で幼児教育センターの設置は徐々に進んでいます。未設置の自治体もまだ多く、幼児教育アドバイザーや幼児教育専門指導主事による指導が確実に受けられる環境を整えることが急務です。

そこで指導的な役割を果たす人材も、実はその多くが国公幼出身者です。現役やOB・OGの先生方が、域内の各園の課題解決のために尽力してくれています。現場で力を付けた人材が、管理職とし

園でも、と言うよりも、だからこ

そICT環境の整備は急務です。

オンラインによる研修や会議などが増える中で、保護者との情報共有のためのメールも含めたICT環境は、今やライフラインと言えます。また、ホームページでは子どもの育ちや活動の意味を分かりやすく発信し、子育てに悩む保護者を支え、幼児教育の理解者を増やす役割も求められています。

### 「みちくさいたずら こどものじかん」

私は、これまで国公幼の仕事をしてもらって、幼児教育の重要性、国公幼の使命などを社会に発信することの大切さを訴え続け



てきました。

そして、臨時休業の中で迎えた昨年四月から、今度は一人の園長として、青南幼稚園のホームページから新たな発信を始めました。

それが、小さなコラム「みちくさいたずらこどものじかん」です。二十四節気、七十二侯に合わせて、身近な自然から感じたこと、それに関わる子どもたちの様子、子育ての支援となることなどを写真とともに紹介しています。

て園経営を進めたり、指導主事などの立場で、幼児教育・保育に関する研修の充実などに力を発揮したりすることが当たり前になってほしいと強く思います。

### ICT環境の整備が急務

今回の事態への対応を進める中で、ICT環境の整備に関して、地域によって大きな差があることが改めて明らかになってきました。

この点については、ここ数年、要望書や活動方針にも示してきています。文部科学省の予算が活用できることを行政の方々とも共有し、小中学校のGIGAスクール構想とも連動し、幼稚園・こども

この小さなコラムやブログで紹介している内容は、先生たちが子どもたちと共に創り出し、紡いでいる遊びや生活の様子です。

人や自然と関わる保育という営みの魅力、そこで大事にしたい構えなどを自園の保護者はもちろん、日本中の保育者、幼児教育・保育に関わる方々、子育てをしている方々など、多くの皆さんに読んでもらいたいと願いながら綴り続けています。

### 実践と発信を支える環境

再開後の保育を考える際に、現状を前向きに捉えつつ、子どものペースに合わせた、身の丈に合っ

## 質の高い幼児教育を追求する

### 巻頭言

変わらぬ「幼児教育」 ..... 岩濱 里江子 2

### 特集

質の高い幼児教育の追求 ..... 4

### 論説

幼児教育に今、求められること ..... 小久保 篤子 5

### 提言

質の高い幼児教育を若い力と共に ..... 新山 裕之 12

### 実践事例

離れていても心が通う教育実践を通して —今できることから— ..... 西岡 絹代 19	つながりが育む学びの深まり —出会い、気づき、好きになる— ..... 斎藤 弘子 23
心のふるさと ..... 和泉 元彌 27	生き生きと遊ぶ子どもたち ..... 30
岡山県 玉野市立田井幼稚園	
つながり育つ みんなで育つ ..... 32	
京都府 木津川市立木津幼稚園	
世界の子ども ..... 大橋 好美 34	
マレーシア	
じほうセミナー ..... 遠藤 利彦 36	
ここが知りたいQ&A ..... 38	
なるほど?! ミニ情報 ..... 山下 久美 40	
文部科学省ニュース ..... 42	
表紙デザイン募集 ..... 43	
全国の園長会から 神奈川・兵庫・宮崎 ..... 44	
読者の声 ..... 47	
国公幼だより ..... 48	
次号予告・あとがき ..... 50	

た保育をしていこうと全教職員で共有しました。先生たちは、日々の実践や研究をおもしろがって、様々なチャレンジをしてきていて、豊かな実践が生まれています。私自身も率先して環境の整備を行い、直接・間接に保育に関わっている中で、子どもの魅力や保育のおもしろさを実感することが多く、それを伝えずにはられない日々なのです。

有り難いことに港区はICT環境の整備が進んでおり、教育委員会の支援も厚く、さほど知識や技能のない私でもホームページの更新ができています。教育の港区として、教育の土台である幼児教育の重要性を深く理解してくれて

いるお陰だと感謝しています。多くの自治体でこのようなICT環境の整備が進むよう、行政やPTA組織とも連携し、文部科学省の予算なども上手に活用していきたいでしょう。

### 心の根っこを育てよう

日本の幼児教育の父と言われる倉橋惣三は、「はいれない子にも薫れや梅の園」という句を詠んで書にしためています。力強いその書には、園丁と銘があり、インク瓶の蓋の落款があります。

五年前、お茶の水女子大学歴史資料館で、この書と対面したとき、しばし自らの使命について思いを

巡らせたことを思い出します。私たちは、子どもたちの心の根っこを育てる営みに関わらせてもらっています。土を耕すことから始め、水やりをし、時には枝を剪定したり支柱となつて支えたりもします。花が咲き、実がなるのはずっと先になることもあります。子どもたちの小さな成長を自らの喜びと感じられる、この仕事の素晴らしさや魅力は多くの皆さんと共有できるはずで

す。私たちは、目の前にいる子どもたちはもちろん、日本中の子どもたちの幸せを願いながら働いています。日本の明るい未来のために、これからも一緒に心の根っこを育てていきましょう。